早春　&　偉大なる飛行家 編集する

2007 年 03 月 23 日 02:20 友人の友人まで公開

1 view

≪写真 1≫天下の秀峰、金時山。あの雲の向こうに…。

≪写真 2≫遠方は昨年登った明神ヶ岳。早春の山。
　　(新緑はこれから始まる!?)

≪写真 3≫小さな惑星 B612 に立つ、王子さま。

3/21

♪ま～さかり　か～ついで　き～んたろう

で有名な、金時山へ。
(金太郎は、のちに「坂田公時(きんとき)」と改名したそうです。)

金時山は御殿場と箱根の中間。富士山から金時山までは、
さえぎる山はなく、天気がよければ裾野から大きな富士が
拝めるのである。

(御殿場駅付近で見上げた富士山は、ま一じで、でかっ!!)

早春。シーズンにはまだ早い、3 月の山。
晴れたり曇ったりの一日。日陰の続くひんやりとした登山道では、

霜解けのためか、ぬかるみが続き、山頂付近は急登もあったけど、
それでも登山口から 1 時間半程度で登れる金時山山頂は、
多くの登山客で大にぎわい。我々も山頂で久々にお汁粉を作り、
1 時間弱はのんびりできたかな。

(でも肝心の富士山頂は雲の中…。裾野のみ拝みましたとさ。)

今回のメンバーは、山は初めて(→でも富士山に興味アリ!?)の
じゅごんと、もっぱら日帰りの山に徹する mingQ。
これからも、山への旅路へ、どうぞよろしくです m(__)m

※zhangzi、次は強制的に連れて行きますっ!!

それにしても、金時山は、登って降りてで約 3 時間。
せっかく箱根まで来て、ここで帰るのはもったいない。

そ・こ・で。

～～補足説明～～

じゅごんと mingQ は、「ぐるっとパス」(都内の美術館や
展覧会などが 2 ヶ月間見放題というチケットがあるらしい…)を
持ち歩くほど、美術館＆博物館めぐりが大好きである。
ということで、そこにおれの、箱根で行ってみたい
博物館を加えると…。

★☆　星の王子さまミュージアム　☆★

(前回の日記で、星の王子さまの一節を引用したのは、
実は今日のミュージアム見学に備えて、
自分の中で盛り上がっていたのもあったのです。^^ゞ)

入口はシャボン玉が舞い、なんともメルヘンチック…。
園内は作者が生まれた 1900 年代フランスの街並みをイメージ。
作者や星の王子さまに関する展示や映像が盛りだくさんでした。

で、この作者、サン＝テグジュペリが、実はすごい人だった。

20 世紀前半、空を飛ぶことが冒険だとされていた頃、
サン＝テグジュペリは民間飛行免許を取得し、
国際郵便の航空路を開拓する会社に勤め、
フランスからアフリカ・南米大陸の路線飛行士となったり、
戦時中は年齢制限にもかかわらず、自ら前線に出ることを
志願していた(配属は偵察飛行隊)。

その傍ら、自身の体験や仲間の飛行士を題材にした小説
『夜間飛行』『戦う操縦士』『人間の大地』等を執筆し、
世界中にその名を馳せたのである。

そして、飛行家として、上空から見下ろす山々の荘厳さや、
未知なる大陸での様々な人々との出会いや、
サハラ砂漠の中に独りで不時着したときの苦しさ等の経験が、
すべて『星の王子さま』に詰めこまれているのだ。

「本当に大切なことは、目に見えない。心で見なくちゃ。」

サン＝デクペジュリが、そう読者に語りかけることができるのは、
フライトにおける孤独な時間に見出したものではないだろうか。

（目の前に見えるものから、ちょっと離れたみたほうが、
もっと肝心なことが見えてくるのかも…、だからまた、
離れても戻りたくもなる、ってことになるのかな!?）

自分自身の中に、常に「こども心」があることを認めていた作者。
その気持ちをもって自ら挿絵を描き、友人のために著したのが
『星の王子さま』だった。それからまもなくして、
サン＝テグジュペリは 7 回目の偵察飛行に出たまま、
二度と戻ることはなかったのである。
(サン＝テグジュペリ　1900-1944)。

彼の最期は謎のままとされているが、その後『星の王子さま』は
100 以上の言語で出版されるようになった。世界中の人が
その本を手にとるたびに、その本の名を聞くたびに、
彼のことも思い出せるのだろう。

星の王子さまミュージアム
http://www.tbs.co.jp/l-prince/

※そして、カレーの王子さまを食べてみたくなった、
今日この頃…。

--*-*-*-*-*-*-*-*-*

★6km+α (3/22) 30 分 00 秒(ジャスト!!)

夜風も少しずつ温かく感じるようになりました。

飼い慣らす編集する

2007 年 03 月 20 日 00:42 友人の友人まで公開

3 view

以下、先日、飛騨の旅路への電車の中で、久々に手に取り、
思わずじっくり読んでしまった小説から、引用しちゃいます。

(これ、著作権法違反…!?)

王子さまの回想:
(言葉じゃなくて、バラのふるまいで判断すればよかったのに。
あの小細工の陰にかくれた優しさを察してやればよかったのに。)

王子さま:
「ねぇ一緒にあそぼうよ」

キツネ:
「きみとは遊べないよ。おれは飼い慣らされていないからね」

王子さま:
「『飼い慣らす』ってどういうこと?」

キツネ:
「『飼い慣らす』、それは絆を作る、ってことさ」

キツネ:

「きみはまだおれにとって、10 万人のよく似た少年たちのうちの
一人でしかない。きみがいなくたって、別にかまわない。
おんなじように、きみだっておれがいなくてもかまわない。
きみにとっておれは、10 万匹のよく似たキツネのうちの
1 匹でしかない。
でも、きみがおれを飼い慣らしたら、
おれときみは互いになくてはならない仲になる。
きみはおれにとって世界でたった一人の人になるんだ。
おれもきみにとって世界でたった 1 匹の…。」

キツネ:
「あれは小麦畑だろ？　おれはパンを食べない。
小麦畑はおれに何も訴えない。でもきみは金色の髪をしている。
きみがおれを飼い慣らしたら、小麦畑は金色だから、
おれは小麦畑を見るときに、きみを思い出すようになる。
小麦畑を渡る風を聞くのが好きになる。
おれは小麦畑の色の分だけ得をしたよ。」

キツネの秘密の言葉:
「ものは心で見る。肝心なことは目では見えない。」

キツネ:
「きみがバラのために費やした時間の分だけ、
バラはきみにとって大事なんだ」

キツネ:
「でも忘れちゃいけない。
飼い慣らしたものには、いつだって君は責任がある。
きみはきみのバラに責任がある。」

「飼い慣らされてしまうと、
少し泣かなければならないこともある。」

--*-*-*-*-*-*-*-*-*

「飼い慣らす(絆を作る)」。

おれの中で、人間関係「Give&Take」の仲が理想だけど、
それは、お互い飼い慣らした関係の上に、
初めて成立するのかもしれない。

人それぞれ、価値観や態度が違うのは仕方ない。

ただ、

どれほど同じ時間を共有し、互いのことを分かり合い、
離れていても互いに相手のことを想いあえる時間をもてることが、
絆ってヤツなのかなぁ(友情!?　愛情!?)。

実はこれは、今年に入ってから、なかなか頭から離れない、
やけに考えさせられているテーマ。
でも皆様はやっぱりあまりこういうことは考えないか。(^^ゞ

以上、wildwind ココロの日記でした。(いずれまた、つづく…。)

--*-*-*-*-*-*-*-*

★T-wall (3/16)

黄 1OK、青 5NG、青 6OK、青 7OK、緑 8〜10OK、青 8OK、黄 2NGNGNG

【特筆事項】160 さん、トップロープに挑む!! (by ちっちゃい背中)

★10km+α (3/18) 65 分 24 秒

途中で挫折(＝歩く)…。膝があやしい…。